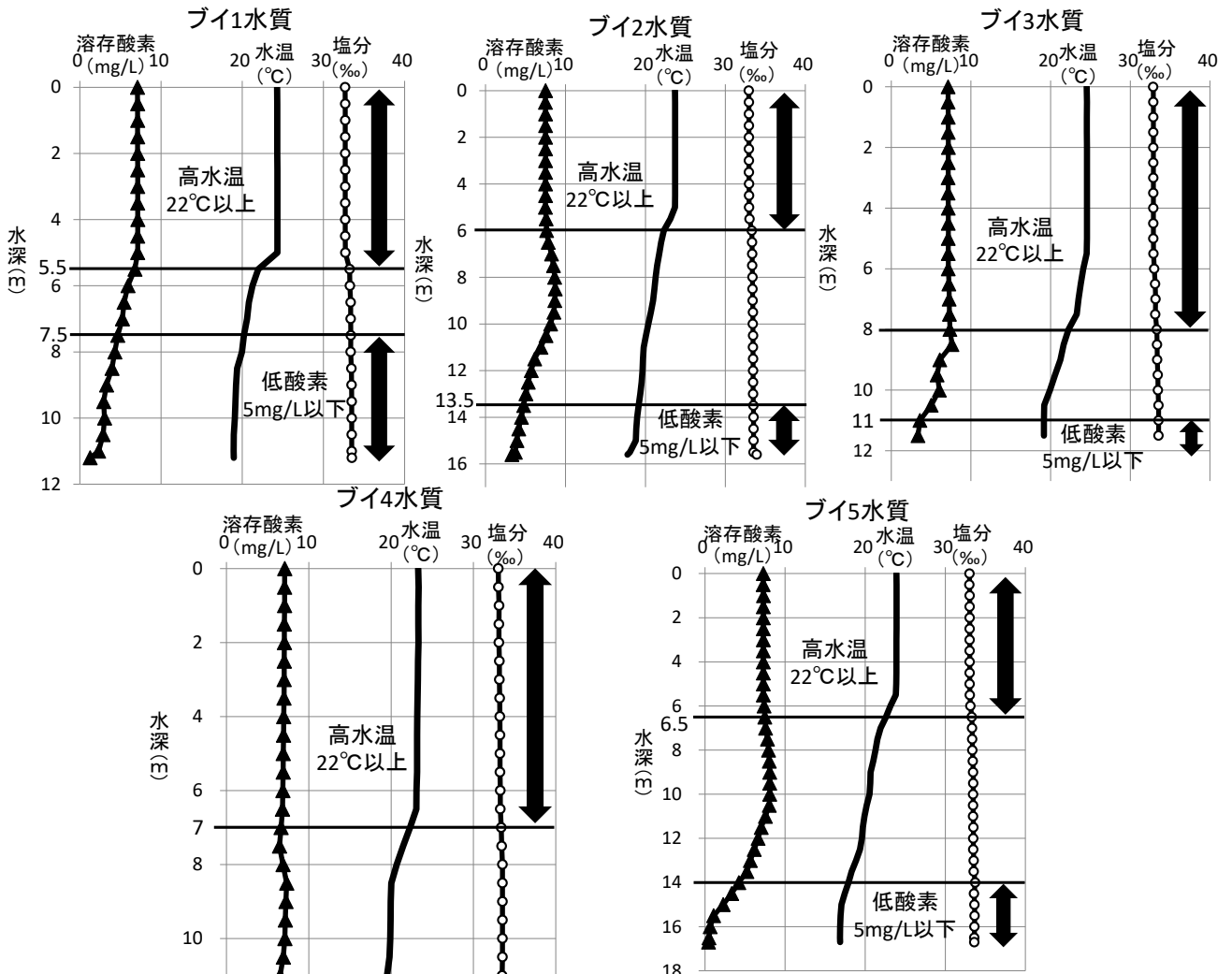


◎サロマ湖水質状況

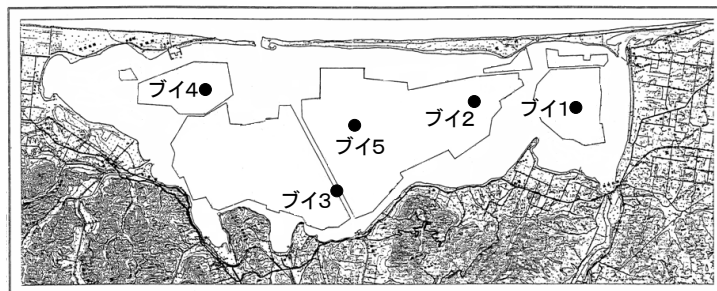
8月29日に水質観測ブイ5機の各地点で水温、塩分、溶存酸素量を測定しました。

その結果、水温は全地点の表面から最大8mまでで22℃を上回っていました。溶存酸素量はブイ4以外の中層から底層にかけて5mg/Lを下回っていました。塩分は全地点で32‰以上ありました。

天候により表面の水温が下がることがありますが、現在、中層まで高水温が広がっていることから、ブイの中層、底層の値にも十分注意をしてください。



水質観測ブイ地点図

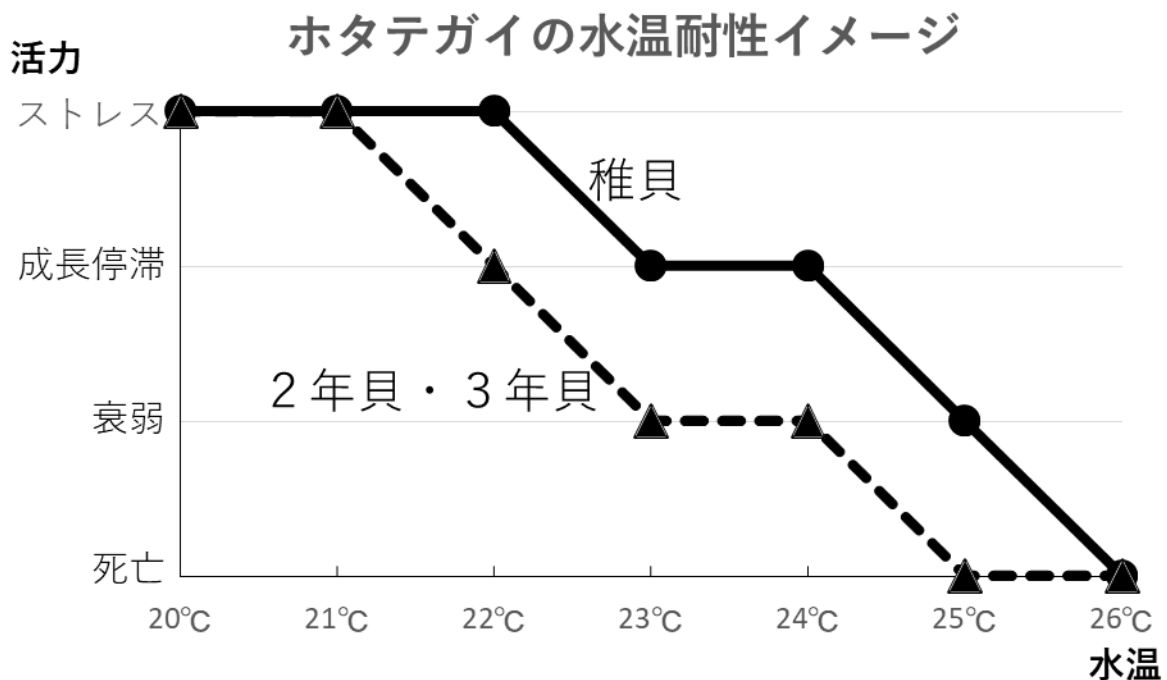


●ホタテガイの水温耐性

ホタテガイは冷水性の生物で高水温に弱い。近年地球温暖化の影響とみられる高水温が頻発しており、これまで培ってきた採苗技術だけでは対処しきれない事態が生じる可能性もあり、改めてホタテガイの水温耐性について確認したい。

これまでの調査研究から、2年貝・3年貝は水温 22℃以上が1週間続くと斃死する個体が出ること、25℃以上では斃死してしまうことが明らかとなっている。また、稚貝については2年貝・3年貝に比べて若干高温耐性を持っているが、青森県では水温 26℃以上で斃死することが分かっている。

ホタテガイの高温耐性は個体差があり、一律に水温何度以上で死ぬとは言い切れない部分はあるものの、下の図のような水温耐性イメージ図を作成した。この図はあくまでイメージであり、できるだけわかりやすく簡単に表現した図であるので注意頂きたい。



このイメージ図は分散作業などのストレスを与えていない状態での耐性なので、同じ水温でも分散作業などのストレスを与えると更に斃死に近づいてしまう。例えば2年貝・3年貝の場合は水温 22℃以上の時にポンプがけなどの作業を行うと衰弱や内着が増加してしまう可能性があるので十分注意が必要である。

●稚貝の分散作業では以下の点に注意して作業する必要がある。

- ・ 沖で作業する場合はできるだけ深いところから取水する（卵が腐ったような匂いがする場合は少しあげる）
- ・ 酸素を十分供給する（気温が高いと酸素供給でも温度が高くなるので注意）
- ・ 空中露出した稚貝はすぐに気温と同じ温度になるので、気温にも注意する
- ・ 1回にあげてくる量をできるだけ少なくする（短時間で海に戻す）
- ・ 前回あげた稚貝が残らないように、全部あげてから次の作業をする

青森県の事例では、高水温時に稚貝の様子を見に行き施設につかまった稚貝だけ斃死したという報告があり、高水温時はできるだけストレスを与えないことが重要である